

ある町の天気相談所

Vol.41
2021.5.7

令和3年5月号

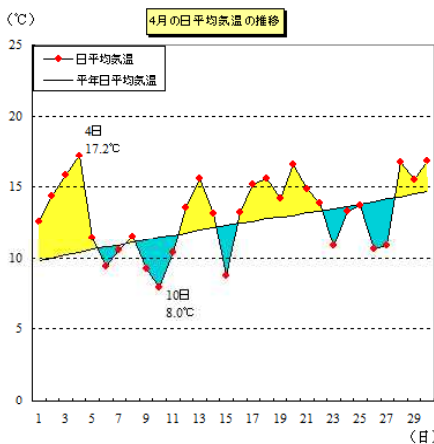


雨の間の青空

4月30日朝、前日に雨が降った後、上空に寒気が入り、きれいな青空が広がっていました。しかし、その後、大気が不安定となり、夜には雲が広がりました。

4月の気候

4月は周期的に天気が変わり、寒暖の差も大きく、天気のリメリもありました。月平均気温は13.1℃と平年より高い気温で、月合計の日照時間は237.9時間と4月としては最も多くなる一方、月合計の降水量も4月としては5番目に多い222ミリを観測し、いずれも平年より多くなりました。



1カ月予報 (気象庁発表)

5月は、周期的に天気が変わりますが、前半は前線の影響を受けやすい予想です。気温は前半は「高く」、かなり高くなる時もありそうです。後半は「平年並みか高い」予想です。降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は「平年並みか少ない」見込みです。

4月のお天気解説

3月から4月にかけて、周期的に雨が降り、降水量が平年よりかなり多くなりました。日照時間も平年より多くなっていることから、雨と晴れがはつきりしており、一度の雨の降水量が多くなっています。これは、上空の寒気が影響しています。

この時期は元々低気圧や前線と高気圧が交互に進んでくることが多くなりますが、上層に寒気が入っていることで、低気圧は発達し、南から湿った空気が入りやすくなるため、大気の状態も不安定となり、強い雨が降りやすくなります。今年は、上層に寒気が入ることも多く、4月18日には1時間で40ミリを超える雨を観測し、4月29日には総降水量が80ミリを超えました。また、高気圧に覆われていても、寒気の影響で大気が不安定となり、4月8日・18日、25日などには、にわか雨や雷、ひょうなども市内で観測されました。

一方、4月の30日間のうち21日間は降水がなく、日照も多くありました。

天気用語の基礎知識

日射量

太陽から届くエネルギーを日射計を用いて測った量です。雲に覆われていても、昼間は明るいですが、これは、太陽からの光が届いている証拠であり、日射は観測されます。北半球では6月頃が、太陽からのエネルギーのピークになりますが、梅雨の時期で、雲に遮られるため、地上に届く日射量はやや少なくなり、5月や8月のほうが多いです。

神峰の山から

4月はFMひたち、行政放送の「天気豆知識」に出演しましたが、どちらも「大気の状態が不安定」をテーマにしてしまいました。3月、4月と、週末から週明けにかけて、それも深夜の時間帯に雨や風がピークになることが多く、職場だけでなく、自宅でも雨雲を監視しているようなことが多く、いつも寝不足な感じが出ていたからかもしれません。この原稿を書いている時も、前日の夜の雨の対応で、寝不足気味であるため、雨の事をたくさん書いてしまったのかもかもしれません。雨不足や雨の降りすぎはこまりますので、しょうがないのですが。

出勤している日の昼間にピークがあるだけでも違うのですが。